



～人と地域をつなぐ～

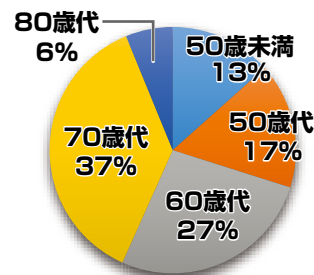


令和元年 江戸川総合人生大学 入学式

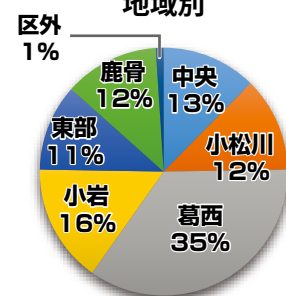


**16期生(97名)が
入学しました**

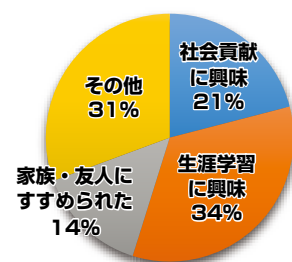
年齢分布



地域別



入学のきっかけ



江戸川まちづくり学科
学科長 佐谷 和江



国際コミュニティ学科
学科長 野山 広



子育てささえあい学科
学科長 笹井 宏益



介護・健康学科
学科長 村田 幸子

社会貢献や生涯学習に興味を持って入学した新入生の約2/3を60歳代、70歳代が占めているものの、若い方も多数入学しており、様々な年代間の交流により、活発な学びが期待されます。

Contents

- 2面：新入生(16期生)の入学動機と抱負
- 3面：学科紹介(1)★江戸川まちづくり学科
- 4面：2年生(15期生)から、同窓会から

★今号から各学科の紹介をしていきます



地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。(※学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

<https://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>



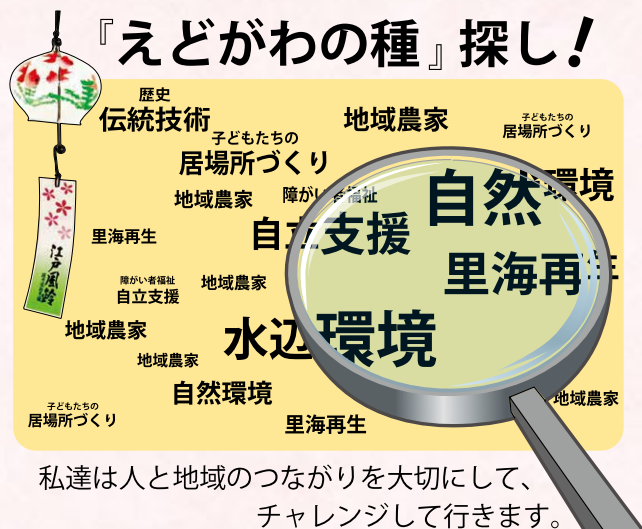
【新入生（16期生）の入学動機と抱負】

70万人のリーダーをめざして！

江戸川まちづくり学科

見る 聞く 話す そして体験

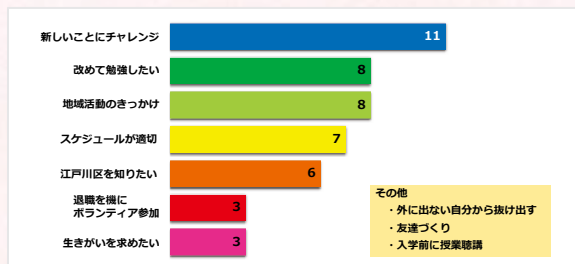
現在、私達は、様々な情報網の発達で情報を瞬時に得る事が出来ます。しかし、人生大学の授業で色々な場所や施設に行くことで、直接その物を見て、直接お話を聞く事が出来ました。



私達は人と地域のつながりを大切に、チャレンジして行きます。

国際コミュニティ学科

24名の学生（平均64歳）の志望動機（複数回答）を調査した結果です。



現在就業中の方8名、インド、シンガポール、中国、米国等での海外生活経験者が6名。視覚障がい者用の録音図書編集や東京オリンピックに向けてなど7名が既にボランティア活動をされています。最近の授業では、洪先生の「韓国近代史にみられる女性像をめぐる政治学」が興味深かったです。ベストセラー『82年生まれ、キム・ジョン』を例に差別から始まる女性像が語られました。人生大学では、手応えのある、成熟した学びの時間を仲間と楽しく共有していきたいです。



子育てささえあい学科

若い方は「自身の子育てに役立てたい」、年配の方は「孫をいじめや不登校から守りたい」というのが、この学科を志望した大多数の動機でした。他には家族に発達障がいのある子どもを抱えていたり、食品の安全性等についてより専門的な知識を追求したい方や世の中の将来ある子ども達を見守りたい等ボランティアを動機とした方もいました。

一流講師陣による授業は大変好評です。授業内容も乳児の成長から子どもの遊びまで幅広く、皆さん楽しんで取り組んでいるようです。特に3～4人でのグループ討議では幅広い年齢層の体験や意見が非常に参考になっているとのことでした。このようなこと全てが新鮮であると皆さん感じておりクラスの活性化につながっています。



グループ討議の様子

介護・健康学科

「全盲で認知症の夫を、よりよく支えるために…」

私は現在81歳です。2年半前に当区の老人ホームに転居してきました。

人生半ばにして徐々に視力を失い、今は全盲となった同い年の夫と2人きりで子どもはいません。ホームには54名が住んでおり、平均年齢は84歳、最高齢が102歳であり、まさに“人生100年時代”の世界です。又、症状の差はありますが、3割以上の方が認知症を患っておられます。夫も認知症気味でオムツを使用しています。毎日夫と接していて、自分もいつかは・・・と不安を覚えます。その上、私は3年前に腹膜癌になり現在も治療中です。こんな状況の中で自分自身の健康と夫の介護に少しでも役立てたいとの思いで、この学科を選びました。女性の平均寿命まで後7年です。なんとしても、夫を看取ってから逝きたいものです！（奥山智恵子）



学科紹介(1) 江戸川まちづくり学科とは

江戸川区をより暮らしやすいまちにするために、自分にできる取り組みについて考える学科です。

1年次は、①江戸川区を知る、②共に学ぶ仲間の良さを知る、ということを中心に授業が展開されます。

区内に出かけ、まちの魅力や文化を探る「えどがわの種探し」、いろいろなワークショップ手法の演習、まちづくりテーマの調査・発表などを楽しく学びました。

特に「えどがわの種探し」では、区内7か所を訪問し、江戸川区の特産品(江戸風鈴、小松菜)、江戸川区の自然環境とそれを守る活動(篠崎ビオトープ、葛西海浜公園、新川)、子どもや障がい者の支援を行うNPO法人(らいおんはーと、自立支援センター むく)についてお話を伺いました。江戸川区に住んでいながら、訪れたことがない地域がたくさんあること、江戸川区によいところや素晴らしい活動があることを知ることが出来て非常に有意義でした。



篠崎ビオトープでの自然観察



篠原風鈴本舗での江戸風鈴体験

2年次は、卒業後の市民活動の展開に結びつく「実践的な学び」を行います。

「市民活動の企画の立案力の向上」として8回にわたり、「協働まち普請」と題してまち歩きで発見したまちの課題の改善提案する授業を行いました。クラスメンバーが以下の4つのグループに分かれ、各グループに江戸川区職員の方が加わり、行政の観点からコメントをもらいながら改善提案をまとめました。

- (1) 一之江グループ：やってみよう新中川のイノベーション
- (2) 葛西・西葛西グループ：歩こう オリンピックロード
- (3) 小岩グループ：Come Love 善養寺
- (4) 船堀グループ：新川のドレスアップ

葛西・西葛西グループは、オリンピッククイヤーということで西葛西駅から葛西臨海公園の隣に新しく出来たカヌー・スラロームセンターまでのルート上(Before)に、道案内を置き、また、小中学生から募集したオリンピックや江戸川区に関わる絵と江戸川百景の写真展示を行う(After)提案を行いました。これは、歩く人が楽しく、江戸川区のことを知ってもらおうと同時に、区民の方にカヌー競技に関心を持ってもらうためでした。



Before



After



小岩グループは、「影向の松」で有名な善養寺を中心として小岩地区の魅力を多くの方に知らせるという提案を行いました(左図)。具体的な提案の一つには、「善養寺!行ってトライ・やってみよう」リーフレット(右図)を作成し配布することで善養寺の魅力を伝えるというものがありません。



佐谷学科長 竹迫専任講師

授業は、主に佐谷学科長と竹迫専任講師が中心になって行われ、二人以外にテーマによってNPO法人や大学教授などからも指導を受けます。グループで発表することが多く、時には意見の衝突がありますが、和気あいあいと意見を交換して発表資料をまとめており、卒業後にボランティア団体などで経験するであろう事象を模擬体験しています。



国際コミュニティ学科

国際コミュニティ学科に入って一年、多くのことを幅広く学んできました。我が国では、少子高齢化の中で外国人を受け容れていかざるを得ません。その一方、多くの課題があることも学びました。15期生の有志は、既に“多文化共生”に向けた取組みを始めました。

名付けて「寺子屋 日本文化教室」。留学生・在留外国人などを対象に、かるた遊びや習字などを通した日本語学習支援や日本文化の紹介に加え、相互の文化理解を目的にしています。まだ少ない外国人学習者ですが、今後増加が見込まれています。

人生大学卒業生等による日本語学習支援ボランティアが少なくない中、この会は、活動内容の充実等を図りつつ、ユニークな存在を目指しています。



子育てささえあい学科

【江戸川区の乳幼児から中学生までの子どもに関する問題を学習 & 実践!】

1年次では様々な学習と経験ができました。学科では座学やフィールドワークを通して今までには知ることができなかった子どもに関する様々な問題を知ることができ、3歳の男の子と2歳の女の子の子育て真っ只中である私自身の生き方にも大変刺激になりました。学科以外にも情報紙の編集委員や大学祭委員など、人生大学と地域の接点に関わることができ、住んでいる江戸川区の知見を大きく広げることができました。この経験を活かし、さらなる学習とボランティア活動に挑戦し、地域の子どもの関わる問題の解決に努めたいと思います。(赤松 卓人)



介護・健康学科

母の認知症介護に必要な介護施設・介護福祉制度等を習得するため介護・健康学科を受講しました。

全国の福祉現場で活動している講師による福祉関連授業は、具体的で説得力ある臨場感豊かな内容で多種多様な知識を習得できました。

介護施設の選択方法、優良施設の見分け方が理解できたことは受講の成果でした。

カウンセリング講座は実践形式講義で対人ボランティア活動に応用でき役立っています。

今後は近隣地域の方々に寄り添えるボランティア活動ができるように地域に密着した福祉関連知識、終活に生かせる知識の習得に努めます。(佐々木 政幸)



同窓会の窓



江戸川総合人生大学同窓会第13期がスタートしていますので、今期活動方針を紹介させていただきます。次の三点です。

1「Excite & Emotion」: 同窓会の最も重要な役割である会員サポートについては、「Excite & Emotion」をモットーに、会員が楽しみ、かつ感動出来る企画を立案・実施していきます。

2「Collaboration」: 人生大学をはじめ、その他様々な機関や団体との交流・協働を通じた、活動のレベルアップを目指します。

3「Innovation」: 同窓会を取り巻く課題を整理・見直し、必要な改革を行っていくことにより、同窓会の魅力を一層向上させたいと思います。なお、今期活動状況については、同窓会ホームページや会員向け情報紙「同窓会だより」に掲載していきますので、ぜひご覧下さい。

同窓会会長 前田 直義 (国際9期)

同窓会ホームページ <https://www.jinseidaigaku-dousoukai.net/>
メールアドレス info@jinseidaigaku-dousoukai.net

編集後記

15期生の編集委員に16期生が加わって新体制となり、情報紙を見直しました。様々な考えが出てまとめるのが大変でしたが、新しい視点で物事を見ることの大切さを改めて実感しました。それと同時に、しばらく同じことをやっていることに安住して変化することが億劫になるのだと痛感しました。変化を恐れず、常に新しいことに挑戦していきたいです。

編集長 谷村 健次郎(まち15期)

編集:「ひと あい えどがわ」編集委員

[15期生] 谷村 健次郎、磐前 知雄(まち) 小越 美子、松村 知勝(国際)
赤松 卓人、涌井 美智代(子育て) 佐々木 政幸、菅原 加津子(介護)

[16期生] 荒井 正男、江嶋 裕二(まち) 新田 隆、宮崎 真理子(国際)
大島 瑠可、若松 信行(子育て) 伊香 三省、米村 康子(介護)